

各症例の「倫理的問い」リスト（ケース、ページ、問い、国名、時期（西暦））
作成 浅井 篤

Book 1 『人間の尊厳と人権』

ケース テーマ 倫理的問い	国	時期
Case Study 1 プライバシー 「これら2つの病院はD医師の疾患を開示すべきか」	米国	1991
Case Study 2 医師の権利 「Hさんから手術への同意を得る前に、M医師はてんかんについてHさんに開示すべきだったであろうか」	カナダ	1998
Case Study 3 患者の個人的な医療情報における患者の権利 「A医師はX氏の精神的な状態についての医療情報の提供を拒否できる立場にあったか」	イスラエル	不明
Case Study 4 未承認治療に対する異議 「患者が受けたいと願う治療法を病院が拒む権利があるか」	米国	1977
Case Study 5 尊厳を持って生きる権利 「この医師は違った行動を取るべきであったか」	日本	1984
Case Study 6 終末期にある未成年者に対する治療の中止 「医療倫理委員会は生命維持の中止を決定すべきか」	米国	2007
Case Study 7 救命治療の差し控え 「もし将来、彼の状態が再び悪化し自力で呼吸できなくなったら、医師たちはJに人工呼吸器を装着し、この装置に関連した集中治療を行うべきだろうか」	豪州	1991
Case Study 8 終末期（エンド・オブ・ライフ）に関する考察 「餓死はABさんの死を早める方法としてふさわしいか」	イングランド	1993
Case Study 9 疼痛の緩和 「GCさんの疼痛と苦しみに基づいて、R看護師は違った行動をとるべきであったか」	米国	1997
Case Study 10 拒否の権利 「医師は生命維持治療を受けることをHAに強制すべきか」	米国	1993
Case Study 11 命の終わり 「医師は、死ぬ時期を決めたいというSRさんの願いをかなえることを許されるべきか」	カナダ	1993
Case Study 12 精神疾患の強制治療 「当該病院は精神疾患患者に自分たちの治療の方向性を決めることを許容すべきであろうか」	米国	1986

Case Study 13 精神疾患患者による骨髄提供 「Yには同意する能力がないという事実があるにもかかわらず、Yは姉のために骨髄ドナーとなるべきか」	英国 UK	1997
Case Study 14 未成年者の代わりに救命治療を拒否すること 「DJは、宗教的信念に基づく両親の意に反して、輸血による治療をされるべきか」	チェコ	2004
Case Study 15 信仰を理由に救命のための治療を拒否する未成年 「LDKの治療について責任を持つ医師たちは、輸血を含む化学療法を受けることを彼女に強制するべきか」	カナダ	1985
Case Study 16 宗教的信念により治療を拒否すること 「医師は、輸血を受けないというAと彼の家族の希望を尊重すべきか」	イングランド	1992
Case Study 17 インフォームド・コンセント 「S氏が非常に不安を感じていた患者であったことを考えると、医師は、彼に違った説明をすべきだったか」	カナダ	1985
Case Study 18 インフォームド・コンセントに必要な情報 「たとえ減胎処置がNP夫人と夫の宗教に反し、医師の良心に反し、医師自身の宗教的信条に反しても、医師は彼らに減胎の可能性を知らせる義務があったか」	イスラエル	不明
Case Study 19 代替治療法についての情報 75 「医師は、当時、しっかりと確立されていなかった乳がんの乳房温存術について、患者に説明する責務があったか」	日本	1998
Case Study 20 予期しない医学的問題のために事前の同意なく治療を行うこと 「Mさんが同意を与えることができるまで、C医師は手術を延期すべきだったか」	カナダ	1933
Case Study 21 不可逆的処置に関するインフォームド・コンセントの特別な重要性 「P医師はSKさんの同意なく生殖器官の摘出手術を行うべきであったか」	インド	2008
Case Study 22 意識のない患者の推定同意 「病院は胎児の命を救うために、夫の強い反対とC夫人の明白な同意なしでも、帝王切開を実施すべきか」	香港	2003
Case Study 23 精神障害患者に対し、同意なく実施される不可逆的な医療行為 93 「手術に対して精神障害のために同意できない出産可能な女性のケースにおいて、不妊手術は容認されるか」	イングランド	1989

Case Study 24 患者の決定を尊重すること 97 「医師は、M 夫人の明確な反対にもかかわらず手術を行わなければならなかったであろうか」	米国	1914
Case Study 25 保健医療サービスを提供する際の平等性 100 「そのような治療を受ける余裕がない S 氏のような人に、国家は、望まれる治療を提供しなければいけないのだろうか」	南アフリカ	1997
Case Study 26 国家が救急医療を提供する義務 「上述の（諸）病院が HS に対する治療を拒否し別の病院に紹介したことは正しいといえただろうか」	インド	1996
Case Study 27 「不当な生命（ロングフル・ライフ、wrongful life）」という主張 「まったく存在しない（死とは区別される）という状況は、生きているよりもよいこととしてみなされるべきなのか」	イスラエル	不明
Case Study 28 義務的な予防接種 「州議会は、L と K が予防接種を受けていないことを理由に、保育園への入園を拒否することで差別する権利を与えられているのだろうか」	豪州	1996
Case Study 29 囚人の尊厳保護 116 「患者が医療行為中に、手錠をかけられていたり、プライバシーが確保されていない場合、医師はこれに口をだすべきか」	イングランド	2007
Case Study 30 配偶者間体外受精のための無断の精子採取 「病院は、MAW の願いに従って、GAW の明確な同意がないまま、昏睡状態の彼から精子を採取するべきであろうか」	豪州	2000